

輸出品卸価格

# 5~10%引き下げ

## マイクロニクス 円高で対応策

【立川】マイクロニクス（東京都八王子市、田仲克彰社長、042・637・3667）は、輸出製品の卸価格を2月中旬をめどに全面的に5~10%程度引き下げる。電子計測機器などの輸出では円建てで代理店と取引しているが、円高に伴う海外での小売価格上昇を抑える。

価格競争力を保つとともに円建てで代理店と取引して為替変動リスクを減らしているが、円高に伴う海外での小売価格上昇を抑える。

もに代理店の販売意欲を喚起し、売り上げベースで事業全体の25%を占める海外での拡販につなげる。売上高は明らかにしないが、09年9月期売上高を前年度比5%程度成長させていく。

マイクロニクスは昨年末、海外販売の3割を占める米国向け製品で、10%程度の本船渡し価格（FOB）引き下げを始めた。これを欧州や中国



輸出主力製品のスペクトラムアナライザ（写真）は従来、競合する海外メーカー製品よりも低価格に設定し販売してきた。ただ、一部地域では海外製品より高価になる逆転現象が生じ、販売への影響が懸念されていた。